# 第２回酒田市総合計画審議会産業部会会議録

日　時　　平成１８年８月１日（火）午後１時３０分～午後３時００分
会　場　　酒田市役所　第３委員会室

◎出席者
・部会長
齋藤　成徳
・副部会長
池田　正昭
・委員
齋藤　藤八　　富樫　秀克　　中瀬　義秋　　星川　　功　　日下部仁司
髙橋　敏一　　武田　恵子　　佐藤　吉雄
・事務局職員
松本　恭博　　和田　邦雄　　阿部　雅治　　海藤　成雄　　前田　茂実
佐々木雅彦　　後藤　吉史　　菊池　裕基　　池田　恒弥　　大谷　謙治
前田　茂男　　永田　　斉　　後藤　重明　　斎藤　　徹

協議日程
部会長あいさつ

１．開　会

２．協　議
（１）酒田市の現状と課題（案）について
（２）その他

３．その他

４．閉　会

開会　午後　１時３０分

## 部会長あいさつ　・　１．開　会

○事務局（永田斉）　本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。総合計画審議会産業部会の開催に先立ちまして、産業部会長よりごあいさつをいただきたいと思います。

○会長（齋藤成徳）　今日はお忙しいところ誠にありがとうございます。私ども産業部会は、第１回目は会長、副会長の役員選出でしたので、審議はしませんでした。実質的な審議というものは第２回目ですので、今日からという形になります。資料にもありますとおり、産業部会と言っても、ただ一口に産業ということで大変な全ての各部門の責にある皆さんから受取られるということで、したがって、今日の論議もいろんな面で皆さんからご意見なりご指導をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見を頂戴して意義のある議論をいただくことをお願いしまして、あいさつに代えさせていただきます。ありがとうございます。

○会長（齋藤成徳）　それでは、第２回目、今日の皆さんのお手元に資料がありますとおり、１０人の委員の皆さんからお出でいただき、全員出席ということで、この会議は過半数という要件設定になっておりますので、今日は有効であるということになりますので、さっそく協議に入らせていただきますのでよろしくお願いします。

協議に入る前に事務局より何かありましたら、よろしくお願いいたします。

○事務局（永田斉）　出席部課長紹介。　－　省略　－

## ２．協　議

○会長（齋藤成徳）　それでは、さっそく協議事項に入りたいと思います。

協議事項（１）酒田市の現状と課題（案）について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（阿部雅治）　それでは、私のほうからご説明しますけれども、前回の審議会でさっとは説明しておりますので、今回は産業部会に関するものにつきまして、もう少しご説明したいと思います。その前に、今日は第１回目の部会でございますので、今後の進め方につい

てご提案をさせていただきたいと思っております。実は前回の審議会でもご意見が少し出たようにも承っておりますけれども。今回、この現状と課題について、まず足りないもの、ここに書いてないものについて網羅的に出していただきたいと思います。その後のまとめ方についてですけれども、今の社会現象といいますか、経済的な問題とか、あるいは人口減の背景とか、そういうものを踏まえまして、網羅的な全体的に書いてある内容について、全部を審議するというのは、かなり無理な話だと思います。そういうことで、この中で、今の社会の背景を踏まえまして、この１０年間で少し重点的に酒田市でやらなければならないものについて少し集中的に、少し丁寧に審議をしていった方がいいのじゃないかというようなことを検討させていただきました。後で部会長から諮っていただいて、よろしければ、その内容をある程度深く論議しなければならないわけですので、庁内でもプロジェクトといいますか、関係部署が集まって集中的にやる課題について、一辺倒な施策ではなくて、もう少し深く検討しまして、この会にご提示をしながら、そこでまた審議をしていただくというような形にしたいと思います。それの位置付けということになりますけれども、それが即、総合計画の中に組み込まれればいいわけですけれども、かなり深く研究とか審議をしていただきますので、一辺倒のものにあてはまらないとすれば、例えば、県の新総合発展計画の中にもありますけれども、個別に推進プロジェクトといいますか、そういう課題を一つずつ挙げて、これからこういうものが重要だというように書いているものもございますけれども、そういう形でまとめて、別添になるのか、あるいは資料となるのか、その辺の位置付けは少し今後の進み具合で論議していきますけれども、そういう形で時代にあったようなものについて、少し示していった方がいいのではないかと考えております。そういう形のものについても、後でそれでよろしいのかどうかということで、皆様方のご意見を伺っていただければと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

**資料説明。　　－　省略　－**

○部会長（齋藤成徳）　ありがとうございました。今事務局から説明ありましたけれども、この説明について、ご意見ございませんでしょうか。７月３日の総合計画審議会の資料に一応は目を通したつもりなのですが、広範囲なものですから、関係のあるところしか目を通さなかったというのが現実ではないかという感じはするわけですけれども。どうぞ。

○委員（齋藤籐八）　今、酒田市全体から見た場合、中山間地とか山は６０パーセントだと、全くそのとおりだと思います。けれども、中山間地に住んでいる人も高齢になったものですから、せっかく伐採期に入っても全然手が入らないため荒れ放題です。せっかく林道だとか

作業道を開発したわけですが、今までは受益者が管理していたのですけれども、高齢になったものですから受益者だけで管理ができないような状況で、ますます山林が荒れていくわけです。この状況の中で、維持管理というものは、せめて林道だとか作業道の管理は、従来のように関係地域の人や関係者だけでの維持管理はとうてい無理になっておりますので、何とか今までのやり方ではなく行政も手を差し伸べて、せっかくの山林ですから管理できるような体制を一日も早く整えてもらいたいと思います。実際うちのほうで今お願いしているわけですけれどもちょうど作業道の枝線のところに木橋がありまして、この間行政の皆さんが現場で立ち会ってどうしたらよいか協議しました。手っ取り早いところでは、３０パーセントの補助制度がありますから地元で架けなさいと、そのほうが一番いいのじゃないかという話だったのです。大雑把に考えても２００万から３００万円くらい掛かるわけです。それで１５町や２０町の山林を持って全部で７０パーセントを負担するとなると、大体１０アールあたり１０万円くらい。こんな状況ではとても夢物語で、橋が今落ちそうになっていて、ちょうど入口なものですから、橋が落ちれば２キロもある作業道が全然使えなくなります。このような状況がそこだけではなくいっぱいありますので、出来れば林道・作業道の管理というものを、責任の分野というものを受益者にお任せするだけではなく、何とか考慮してもらいたいと思います。

○部会長（齋藤成徳）　市の説明について何か質問がございませんかというようなつもりで言ったのですけれども、そっちのほうも結構ですから。それでは、さっそく市のほうから説明のありました酒田市の現状と課題についての質問をあらためて質問していただくということで、今前もって質問を受けましたので、ありがとうございました。これは、皆さんからご意見が出た後で、それぞれ市のほうからコメントをいただきましょうか。あるいは、一つ一つでいきましょうか、どういう進め方をしたほうがよろしいでしょうか。

○事務局（阿部雅治）　会長のやり方でよろしいですけれども、一つずつ今結論を出すということでもございませんので、ご意見はご意見としていただくことになります。

○部会長（齋藤成徳）　どのような要望なりご意見があるかということを、まず最初にまとめて、そして最後に事務局のおっしゃるように、どうしても総花的になっちゃいそうなものですから、その中から絞って議論していくような方向付けもしたいというご意向もあるようです。そういうことも含めて、今貴重なご意見を頂戴しました、ありがとうございました。後でまたまとめて、それに対する対応なり、そういうものをまとめていきたいと思います。その他、どうぞご遠慮なしに何かございませんでしょうか。この間、武田さん、若い層のこと

について質問したいという意向もちょっとお聞きしましたので、どうぞご遠慮なしにお願いします。

○委員（武田恵子）　質問というか意見ですが、少子高齢化の時代にどうやったら歯止めをかけて、酒田市が生き延びていけるのだろうかと考えた時に、やっぱり若い人が働きやすい、働きたいまちでなければ人は残らないのではないか。いくら高校で頑張っても、出て行ってしまって戻るところがなければ、人口減に歯止めはかからないのではないかというふうに思います。私の仕事が小学校の教員だからということかもしれませんが、力をつけてやっと卒業できるところまできたときに、働き口が無いとなるともう涙が流れるだけです。高校を卒業してやっと働ける、あるいは大学を卒業して地元に戻ってこようかというときに、働き口がないのでは駄目なのではないでしょうか。それが、地盤沈下につながっていくのではないかと思うので、どうやったら若者が働きやすいまちになるのだろうと考える必要があります。とにかく若い世代が働きたい職場があるということではないかと思います。それが雇用につながるし、税収につながるし、活気につながる。若い人達が働いて安定した収入が見込めれば、もちろん子育ても出来るだろうし、みんな頑張っていこうという気になれると思います。今、酒田に帰っても働くところが無い、だから、とても帰れないとなっていくと、ほとんどの若者が居なくなって、高齢化に歯止めがかからない、税収減というふうになっていく。どこから手をつければいいのかよく解らなかったのですが、そういうことを感じています。それを上手くどこかに盛り込んでいただけないだろうかなと思いました。私は小学校の担任なのですが、子供の親も若い親でリストラされて働けないとなると、これからどうしたらいいのだろうと困っている家庭も何軒かありました。再就職した人もいるのですが、やはり、そういう中では子供も精神的に安定しませんし、親たちも大変なのです。いろいろな活動をしていくうえでも差が出てきて、今はそういう状況でとてもＰＴＡの活動に参加できないという家庭もあります。極端なことをいいますと、お父さんが家にいて、お母さんのパートで暮らさざるを得ない家庭もあります。そういうところを見ていると、とにかくパート収入ではなくて、きちんとした安定収入が見込める会社、事業がほしいなと思います。

○部会長（齋藤成徳）　はい、ありがとうございました。その他、どうぞ誰かございませんでしょうか。出なかったら、順々にどうぞ。高橋さん。

○委員（高橋敏一）　全く武田委員のおっしゃるとおりです。当然我々産業部会の目的とするところは、武田委員のおっしゃるとおりだと思うのです。私の場合は、八幡の齋藤委員がおっしゃっていましたけれども、中間山村の問題ではなくて、我々農村部の集落の、例えば私

の場合、息子が一人っ子ですし、はっきり申し上げて、仕事が無ければ家に来ないです。単に山村の荒廃ばかりではなくて、我々農村部の集落の中でも、あるいは、コミュニティ組織も子供が来なければ荒廃します。これはみんな同じことだと思うのです。ですから、我々産業部会というのは、若い者の働ける場の確保、これに全てが通じるのではないかと考えます。そして先々、様々な文言で固めるのですけれども、一つ希望として夢を入れてもらいたい。以上でございます。

○部会長（齋藤成徳）　ありがとうございました。はい、どうぞ。

○委員（中瀬義秋）　１回目の会議を所用で欠席させていただきましたので、ちょっとお聞きしたいのですが。この産業部会というのは、要するに酒田市の総合計画に産業部門として何を盛り込むかということを協議する場所と理解してよろしいですか。

○事務局（阿部雅治）　はい。

○委員（中瀬義秋）　はい、わかりました。

○部会長（齋藤成徳）　よろしいですか。

○委員（中瀬義秋）　ちょっと色々と間口が広いものですから、そういうことになりますと、じゃあ部門的に、例えば農業部門では何を盛り込んでいくのか、工業なら工業で何を盛り込んでいくのかというのが総合計画の中に具体的になっていきます。盛り込んでいかないと総合計画が進まないわけです。それを具体的に、ここにあるようなこと全部検討するのかどうかなと、非常に心配になってきました。

○事務局（松本恭博）　ちょっと補足してよろしいでしょうか。これまでの酒田市、それから３町の総合計画は行政全般に渡って項目を挙げています。そうしますと、今おっしゃるとおりに、ものすごく間口が広いものですから、これを全部議論しろと言われても委員の皆さんが大変だと思いますし、これから１０年間の施策と考えた時に、どうしても網羅的に書くものですからポイントがぼやけてしまいます。本当に新酒田市がこれから１０年間どういう方向に行きたいのだということについて、非常にぼやけてしまうという危険性が多分にあります。ただし、それは網羅的に書かざるを得ない項目を挙げておかないと、いろいろな施策を展開する意味でも必要なことなのです。ですから、それは事務的に相当詰め込んで、こういう課題という形で提案をさせていただいているところです。実はこれは、１市３町の過去の部分についての整理をしたものですから、これから１０年を睨んだ時に本当に必要な項目がそれぞれの分野でもれていないか、これをまず第１点に指摘をしていただきたいというのがまず一つです。それから、例えばこの産業部会ということにとらわれていけば、雇用の問題

だとか、そういうものが非常に大きな課題であろうとしたときに、単に雇用を促進しましょうという一項目を挙げて終わりというわけにはいかないでしょうと。そうすると、産業部会として皆さんそれなりの知見を持たれている方ですから、この部分についてもう少し具体的な手立てを、こうしたほうがいいのではないか、ああしたほうがいいのではないか、その結果、夢のある酒田市を創れるのではないかというところの議論を部会でもって議論していただければということです。ですから、今我々がイメージしているのは、その総合計画の書き方を、全般的に項目を満遍なく作っている部分と、そのポイントポイントで少し議論を深めた、これは少しこれから１０年間の酒田市を特化したといいますか、方向性をきちんと出していく部分との２階建ての構造にしようかと考えています。それで最初に各部会長さんにお願いしているわけなのですが、そういう作り方でよろしいでしょうかと、いやいや従来どおり満遍なく出しましょうと、これも一つのやり方だと思います。それはそれでいいから、何点か１０本ぐらいの重要施策だけ議論して終わりというやり方もあるのだと思います。ただ、これから先の大きな指針でございますので、我々は全部網羅した部分と、特化した部分と２階建てで考えて、それを上手く練り合わせながら、これからの施策の展開を具体的にやっていこうと、そして、その２階の部分は皆さんから一つ一つ少し掘り込んで、例えば雇用を確保するために、今酒田市には本当に何が足りないのだろう、それにするためには、酒田市としてこういうことをもっと努力すべきではないかとか、これは酒田市だけじゃない県とか商工会議所も一緒になってやるべきでないかという議論を出していただくとよろしいのかなというふうに考えているところであります。

○部会長（齋藤成徳）　はい、ありがとうございます。今、部長がおっしゃるように、まず今日は、各分野からお出でいただいておりますので、更に第３回目というものがありますので、少しずつ詰めてまとめていきたいと思っております。まず、今日は第２回目ですけれども、第１回目と同じですから、それぞれの今持っている、あるいは考えている現状を切り抜きしていただく、そしてこういう問題がありますよというようなことをおっしゃっていただく、それでいいのではないかと思います。これをどういう形でまとめていくか、それで次の会議の焦点にだんだん絞っていくという形をとりたいと思います。今高橋さんからおっしゃっていただきました、ありがとうございます。日下部さん。

○委員（日下部仁司）　私は先ほどありましたけれども森林の話です。ここの現状にも書いてあるとおり、かなり放置林が出ている。決壊しているものが修復もされない林道も多々あります。その中で、地域交付金という農業版の直接支払のように、昔の作業道とかそういうも

のの修理に若干のお金を組合としてやっています。かなりの森林が酒田市全体を見るとあります。これから雇用も併せて、山の手入れをどうやっていけばいいのか、その森林をいかに動かすかというのがこれからの大きな課題ではないかと思っております。それを動かすにはどうしたらいいかということは、やはり、一生懸命林家の皆さんが手塩にかけた山がお金になるようにしていくということ。そのためにはどうしたらいいかということですけれども、それに組合としては一生懸命取り組んで、なんとしても若い人を雇用して、これからの活力のあるものにしていきたいと思っています。でも、なかなか難しい課題が山積しております。これは、いい答はありませんけれども、走りながら考えていくしかないというのが現実です。全てがそういうところに繋がっていると思っています。課題については、高齢化で組合員になっている人が山に関心が無くなって景観が悪くなっている。そういう現実をどのようにしたらいいかというのが頭の痛い問題です。これからそういうことを一生懸命考えて、どういうふうに組合としても、また、市としても考えていただけるのか、一緒にあわせて考えていきたいと思います。

○部会長（齋藤成徳）　ありがとうございました。先ほど齋藤さんの方からは意見を頂戴しましたので、富樫さん。

○委員（富樫秀克）　八幡商工会の齋藤会長の話とかぶるところがあるのですけれども、それから、今の日下部さんの話もそうですけれども。林業云々についてですが、原則、国有林と民有林があるわけで、所有者のある民有林の管理が行き届いていない。それに併せて、山が荒れていくというような話の中で、地産地消に木材を使うとなれば、当然そこの林道なり林道橋、森林の中の基盤整備は必要になってくるわけです。私も今現在、森林部門、建設業協会の酒田支部長をやっておりまして、そこでも様々な話があるわけです。森林の中における林道の密度といいますか、どのくらいの林道のキロ数が走っているかということになると、山形県は、全国で北海道と沖縄の次、下から３番目なのです。実際山形県の森林面積が８割になっているわけですけれども、そういった面でも確かに立ち遅れているという中で、ここ最近、森林環境税ですか、目的税なのかちょっとはっきりしませんけれども、そういった形の中で、所有者のあるような里山、森林の整備に新たな枠組みで皆さんから広く薄く税金をとりながら整備をしていこうというようなものかと思われます。そういったものを、今、県の当局の方では検討しているみたいですので、その流れというものも見極めていきたいと思います。あと、武田先生が申し上げました雇用の確保云々、若者の雇用の場というようなことですけれども、今若者が求めるような格好のいいＩＴ産業とか、新しいキーポイントで何

か仕事ができるような動きも普通でしょうけれども、今現在酒田市内にある一生懸命やっている中小企業の足腰が強くなるような施策といいますか、今ある企業をいかにして財務の体制を強くするかといったものがあれば、そこからまた枝分かれして特化できるようなものもあるかと思います。今現実に私ども企業を営んでいるものにとって、国の三位一体改革はボディーブローのように効いてきておりますけれども、ここで酒田市がどのような、今ある企業に対しての手立てなり、商工会と商工会議所を取り入れた形での元気付けができるのかということも必要だと思います。

○部会長（齋藤成徳）　ありがとうございました。中瀬さん先ほどは総論的な問題でご質問ありましたけれども、立場の中で何かご意見頂戴できれば。

○委員（中瀬義秋）　今、林業の問題の話が出ているようですけども、結局山が荒れるというのは、森林組合長さんが言ったようにお金にならないから荒れるわけでして、これははっきりしているわけです。その中でどうすればいいのかということが大きな問題だと思います。これはこうだからと一つの問題で解決することではないのですけれども、一つの提案として、今、うちのアイアイ平田の温泉が去年オープンしたわけですけれども、あそこの燃料が木質ペレットです。今、油がすごく騰がりまして、各地からすごい視察に来ているのです。あれは、廃材なり間伐材を利用して、それをペレットにして燃料化している施設です。実は、去年の２月でしたか、うちの商工会で岩手県の住田町というところに視察に行ったのでが、そこは、山の中の町でして木材に頼るものがいっぱいあるのです。ペレットもそうですし、製材もやっていますし、建設、いろんなものを作っている町です。その中で、残り物といってはなんですが、端材を木質ペレット化して、それを奨励しているのです。それも間伐材なり、あるいは廃材なりを活かす一つの方法だろうと思います。時節柄こういう状態になってきて、油はあまり期待できないのではないだろうかという一つの見方があるのです。じゃあ、一つ燃料として、あるいはいろんな形で生産できないかという、これも一つの考え方だと思います。それで、プラント的にはそんなに高額なものではありません。今庄内で作っているものは鶴岡市の櫛引にありますけれども、うちの温泉はそこから買っています。廃材とか、あるいは間伐材を上手く利用できれば、森林の手入れもある程度は進んでいくと思います。そんなところで、森林なら森林組合ということではなくて、総合的な形で一つの産業として立ち上げるためには、皆が力をあわせて一つの産業を立ち上げていくことも大事なのではと思います。もう一つ、実は今日の午前中に市議会の地域振興・農業政策促進特別委員会の方々が見えられて、うちの商工会と話し合いをしました。その中で地域的には酒田市として行政は

同じなのですけれども、その中で旧松山なり、八幡なり、平田というのはあるわけで、そこの地域の振興もやっぱり大事だろうと思います。そこにも商業なり、工業なりあるわけです。酒田市の中心街も大事ですが、旧３町の拠点といいますか、その地域の振興も大事だという話をしてきたところです。そういう形で、この計画の中に地域的なものも盛り込んでいただければ非常にありがたいと思います。

○部会長（齋藤成徳）　ありがとうございました。星川さん。

○委員（星川功）　まず一つは、前の計画もいただきましたけれども、今と同じように、現況と施策とその方向付け、そしてずっと並べていったのですが、今、部長が重点事項という分をやるよということですから、これだけ幅広いものを全部並べて、方針、方向付けをするためではなくて、重点的に実践具体策みたいなものも入れるのですか。もし、できれば、特に我々第１次産業の農林業の場合は、ある資源を使ってやっていくというようなものでのずっと同じことを繰り返してきたと思います。ただ、最近は担い手ということで、後継者づくり、特に農業では、ある時から出て来た農業後継者に何十万の補助をやって、畜産だとか、桑園だとか時々の事はやってきました。最近はニューファーマーなど研修に出したり、ひとつの物に取り組むような訓練をしているような、はっきり言って、ない者を育てるということをやってきていました。そういうことの内容を重点的に実践具体策までうたうような事で、これとこれとは漁夫の現場とこうやっていこうと、農協でもいいし漁協さんでもいいし、そういう具体策までうたうようなものをやっていくこともあちこちで必要でないかなと思います。そして、それが１０年間というとあまりにも、いくら総合計画といっても長すぎて、今の世の中の変わりの早いところで、どうしても１０年間にしなければならない何か制度があるのだとすれば、その中である程度２年か３年ぐらいで、見直しといえばいいか、具体策については入れるような機能も入れるようなこともあり方なのではないかなと、施策を２、３回見てきて思いました。特にこの前回のものを見ても、あらゆるものを農業の分野では私どもが関係する限りうたってありますけれども、それを何したかというと、今言ったような一つ二つ目立つような事をやって終わってしまうのが、方向付けだからそれでいいと思いますけれども、その辺でもって今回も相当良くなれば、実際のものを方向付けして、そして予算化なり、様々な部分で我々があれしてくれ、こうしてくれとか、こうしなければならないのではないかというような、今のものをやるというのも、これも今の状況ではむしろ限度は今までよりも厳しいと思いますから、そういった点で、新しく変わったところでは、重点事項では実践具体策も入れる。そして、それはどことどことが、業種の団体だとか、地域だとかがそ

ういうことをやっていくということまでもうたう実践のものを少し表現したらということが必要なのではないかなと思います。農業分野も漁業も林業も皆同じような状況で今はやっていますから、後は、人を創る、新たな商品開発みたいなことだと思いますし、むしろそれ以前に、畑の場面でも遊休農地がどんどんと増えてやる人がいない、資料の中には、如何にカントリーエレベーターを法人化してということだけれども、これはあくまでも田んぼの方の生産調整分野から発展していって、畑の遊休農地までその法人なりの団体が担い手として行なえればいいのですけれども、そこまではまだまだ時間が掛かりすぎると思います。砂丘地の遊休農地だとか、中山間地域のそういうふうなものについても、課題を見いだすようなものが、地域の特性としての作物といったものを開発するというのであれば、生産調整の大豆云々とかそういうものに向かうというのではなく、まずはその地域性のものを作っていくというものを、重点的なものを策定内容の中で重点事項というのはこういうことだよということをお願いしたいと思います。

○部会長（齋藤成徳）　ありがとうございました。副部会長。

○副部会長（池田正昭）　この中に出てきますが特産品開発の関係、あるいは地産地消の関係に絡みあいますけれども。一つは最近砂越の農工連で飛島のトビウオの焼き干しと深層水を使った醤油を売り出したところ大変好評でした。ただ、それが宣伝下手でなかなか出が不足で、なかなか品切れはないようですけども人気商品であります。それから、この間ごどいもの焼酎、これはコラボレーションの一種で、あるいは和梨のワイン。ごどいも焼酎は去年より相当の量は確保したけれども完売という人気もあります。それから、消費拡大の米の関係で、米粉によるパンですか、これについても、麦を使ったパンよりも食感といいますか、その辺がすばらしい。焼きたても美味しいわけですけども、時間が経過しても味が落ちないという評価があります。そういう新しい芽が出てきているわけですから、それを、庄内地方の人は、ＰＲは下手だ、商売は下手だということはありますが、そういう新しい芽を育てることが行政の役割ではないか、創るのは農業者であり、生産者であり、そういうものを大きく育てるのが行政の役割ではないかと思います。ちょっとそれから具体的になって恐縮ですけれども、１９年から米の需給調整が変わるわけです。今までは、国から県、県から市、と要請されてきたたわけですけれども、今度は国は手を引いて、農業生産者自らやりなさいという方向になります。これを失敗しますと、ただでさえ米が余っているわけですから、国策ということで、そのいく末を大変心配しているわけです。この中に土地利用型農業、５７ページの（４）の④ですけれども。農業者・農業者団体がということで主語になっていますけど

も、この間、高橋課長ですか、前の県の農政課長の話ですけれども、まあ、それは文章的にはそうであるけれども、行政の力を借りなければ皆さん出来ないでしょう。そういうことで私も現場を把握していますから、やはり行政と一緒になって協議会を作ってやる方向ですと明言しておりました。これちょっと、前話をしていて若干気になっていたということで、それだけです。それ一点です、以上です。

○部会長（齋藤成徳）　ありがとうございました。それでは、佐藤さん。佐藤さんの立場で広い範囲で何かご意見頂戴したいと思います。

○委員（佐藤吉雄）　総合計画の中での産業部会ということで、ずっと行政の振興計画だとかいろんな部分では参加させられてきたわけですけれども、産業部門というのは初めてです。ですから、非常に近くに産業はあるわけですけれども、自分がやっている仕事ではないというものです。なかなか詳しく毎日の接触というのがない関係から理解が十分でないという側面がまずは指摘されます。ですから、あまり幅ったいことを私は申し上げたくないと思うのですけれども。例えば、あるところで酒田市は他の都市と比べて、いわゆる労働統計等から言っても、仕事場がないということが非常に明確に言われており、更にそれがもっと厳しくなるであろうなどということを言っておるわけですから、先ほど来言われますように、学校を出て仕事が無い、それが、家に帰ってくる可能性もないということの最大の要因になるとなると、その地域はやっぱりしぼんでいくのだろうということからすれば、やはりそういう意味での産業の振興ということは、極めて大事な要素になるのではないかと思います。しかし、少子高齢化という非常に大きな波といいますかうねりみたいのがあって、どんどん生産人口が減っていっているわけです。その中でこの１０年間でどう酒田市を変えていこうとするのか、あるいは産業振興を図っていくのかというのは非常に難しい課題だと思います。私は、この１０年スパンでいうのか、５年スパンでいうのかはわからないですけれども、いずれにしても地域社会の振興というものを考えた時に、そんなに長い目でみたところで、必ずしも効果のある計画とか、そういうものにはならない場合が多いのではないかと思うのです。１０年計画を立てて大体５年で見直すというのが一般的でありますから、そういう意味で、先程当局から説明がありましたとおり、この後段は２４ページに、前段に３ページがあって、約２７ページもの課題を背負って議論をしろと言われても、なかなかそう簡単にできるものではない。だとすれば、今これから１０年なり５年の中で、酒田市民が、関心を非常に強く持っている問題で、この部会に所属するような事は一体何なのかということをまず探してみる必要があると思います。その時にやっぱり一番私どもがあってほしいなというのは、６３

ページに書いてある企業育成対策だとか、あるいは企業誘致対策だとのごく極めて一般的な、その会社が出てきてその会社が繁盛すると、売上高も増えるだろうし、雇用も高まるだろうという極めて一般的な、いわゆる基本原点だと思います。ここがやっぱり現状が何故そうなのか、しかも、県内でも最低だなどと言われて、それで一体何故だ、では、どうすればいいのだと、この事をやっぱり私は皆で相談してみるということにする手もあるのではないかなと思います。もう一つはですね、７５ページに書いてある内容のことですけれども、必ずこれは問題になるのだろうと、鉄道の整備の問題です。羽越線か、あるいは陸羽西線か、いわゆる山形新幹線の延伸かということでは、大変議論になっており、知事が替わったら何か風が反対になっちゃったということを、よく世間的には言われています。しかし、一般論としては、何十年かかってもいいということにはならんだろうし、何千億円かかってもいいということにはならんのだろうということからすれば、選択というのは自ずと決まってくるのじゃないのかなと思います。そういう意味で、山形新幹線の酒田延伸という問題が、交通機関の整備、まあ今新幹線がないわけですから、その面から言えば新幹線整備では山形新幹線の延伸ということを、もっと力を入れてやっていくような方法があってもいいと市民は大変大きな関心を持っているわけです。そういう意味では、この部会で丁寧な議論を、あるいは意見交換をしていったらどうかなと私は考えています。

○部会長（齋藤成徳）　はい、わかりました。皆さんからご意見を頂戴いたしました。私は議長役で述べるわけではないのですけれども、商工会議所の会頭をやっているものですから、皆さんのご意見の中で、大変耳の痛いお話もお伺いいたしまして、議長の立場ではなしに、会議所の会頭としての立場で若干だけ、今の状況を説明させていただきます。本当に皆さんのおっしゃるとおりで、ただ、全てその商工業だけでなしに、農業も林業も漁業も、全ての根本は何かというと、やっぱり、どうしたらもっと活気が出るだろうかというのが基本だと思うのです。その活気を呼ぶために色々皆さんからご意見を頂戴したわけです。活気を有する地域を創っていくとなると、人の賑わいが必要で人のいないとこで活気を出すなんてことは出来っこないのです。でも、行政どうのこうのみたいな、過去の人の賑わいを創るためにはどうするかということになると、今おっしゃられたようにですね、もっと若いたちが地元に喜んで外部からも来れる環境をつくるということが、いわゆる次の段階になってくるわけです。そうなってきますと、いよいよ我々商工会議所が何をしているということになってきますが、これはもう、やはり今おっしゃるように、企業誘致の問題、あるいは既存企業の育成、こういうものも何年来やってきました。なかなか現実面でも非常に効果を上げて、今京

田団地も満杯になって、今新しく造成しているところにも、市の方で一生懸命やりまして、新しく企業が今決まったようです。一つ一つ地味な運動が非常に大事じゃないのかなと思っております。また、商工会にとっても、この間も、今の酒田の商工業の置かれている現状というのはどういうのだ、どういう立場に置かれているのだということも、いろいろな形から、やはり一つのバロメーターとしては、有効求人倍率の数字だということになってきますと、残念ながら、酒田の場合、他所の地区と比較して有効求人倍率の数字がいい方じゃない。その差はどこにあるのだろうかということを徹底して会議所としても詰めていかなければならない。出てきた現象だけやったってこれは駄目だと、何故そういう他所の地区と差が出るのか。それと今出ている結果としては、いろんな評価がありますけれども、やっぱり今活気を呈している地域というものは、非常にものづくりに一生懸命な、そして今までも一生懸命ものづくりをやってきたところが、やはり今自動車産業だとか、そういうところで活気を呈しているのは確かなようです。さっきはもっと地道なものということがありましたけれども、それの答弁です。やっぱり差がどこにあるのだろうということで、一つはものづくりでの立ち遅れが大きく差をつけられている、全てではないのですけれども要因であるということにはなっている。ただ、酒田の場合は、例えば鶴岡なんかと比較して、企業が募集している人数は変わりません。鶴岡も酒田も大体同じです。ただ、職を求めたいという人数はですね酒田の方が鶴岡より多いのです。だから有効求人倍率が下がってくるわけです。じゃあ、何で今急に、前は０．８５でしたけれど、今は０．５５まで下がって、何でそこまで下がったのかという状況を、今我々も商工会議所の立場としていろいろ検討しております。そこでいえるのは、今までの既存企業も当然頑張っていかなければなりませんし、新しい企業誘致もしていかなければなりませんし、そういう手立てはやるつもりでおります。それから既存企業の育成、これまでは大体いいのですが、もっと他にないのかということを今検討に入っています。それは何かというと、やはり、新しい業を起こすような若手を探しながら、新しいベンチャー企業ということでは決してございません、今までやっている企業でもなんでもいいのですが、とにかく事業を起こそう、企業をやろうという気持ちのある若手を、我々はどういうな形で育てていくかということを、今徹底して工業部会では議論しあっているという最中というのが現状です。事務局の皆さんからもご意見なんかを頂戴しながら、やはり、何と言っても賑わいのないところに現状発展なんてありえないですから、そういう場面で皆さんからご意見を頂戴しながら、この産業部会にも夢のある、本当に夢のある産業部会にしていきたいものだと思っております。簡単に商工会議所の現状だけお話させていただきました。

その他、何かございませんか。

○委員（星川功）　前から農業者というか集落の代表のあたりから出ていたのですが、今の都市計画法による規制というか、農振を含めた調整区域の関係です。ここら辺が工業団地だとか、緊急的に住宅団地だとかの酒田市が政策として９年間でやってこられた状況なり、自らが京田だとか工業団地も含めて、粗暴的なことでの土地利用のものがある。一方で、鶴岡はそういう都市計画法の調整区域の網がなかった。農家も今、余剰農地が出てくるし、従来から金のある人と無い人と、状況が良くなった人悪い人と、金をためて、そしてそのままリッチであればそれも良しだけれども、土地を動かしてやるというような、こういうことの繰り返しがいろんな場面であったはずです。企業は、土地と労働と資本の３つを兼ね備えたものが従来あるわけですが、金と土地は動けばそれだけの回転で潤したり、困っている人を助けたりする。土地の売買が出来ないし、農地の処分も出来ないし、そこに新しい事業が来たりするということも、集中的に工業団地だとかあるいは住宅の方もあそこでやる、ここでやったから需給のバランスがあるから後は駄目だとか、こういうふうなもので選択の余地が制限されている。そういうことが企業進出も、あるいは住宅の建設も間々ならないという状況にあったのではないかと思います。さっき言ったとおり、無い人がある人のことを助けてあげて、そしてある人がそのものでもって動けば金がまわって、経済の論理でもって、また新たな企業なり、あるいはある企業が入ってくるなりの事がでてくるはずなのです。その規制があることによって、なかなか鶴岡との違いが、ここ１０年くらいはそういうことがある。そういうことがもう一円としてないだろうかどうかの検証もやっぱり必要だと思います。そして、今また石油なり様々なものがあがってきたから、そういうことで経済が変わってくると思います。この今までの酒田市の規制をそのままにしておくと、そういうことにまた弊害が出てこないかどうか。そういうふうなものが、いい事ばかりを求めているわけではないです。これをやることによってまた弊害も出てくる。あの、今の規制を解くことによって出てくるものもあるかもわからないけれども、そこらへんを検討して、やはり、今までの状況からすると、そういった点も鶴岡との違いがあったのではないかと思う部分もあります。もう一つは、農家の経済も米なり農産物が値切られて大変です。そうすると農家の場面では農地の中でも、屋際の部分は少し白地にして、そういうものが一般の人にも売買、あるいは農家でない人も求める事が出来ましたけれども、それもまだまだ十分ではありません。さっきも言ったとおり、農業の形態は変わってきていますから、土地利用型の大きく規模拡大する稲作の関係と、それから野菜果物なんかは集中的に施設園芸になっていくから、余剰なんかどんど

ん出るはずなのです。そういった面で、もう少し商工業なりで元気が出るような、進出なり様々のものになられるようなこと、そして、土地と金の動きをもう少しまわすような事の考え方をしないと駄目だと思います。これからの場面では、今の経済の変わり具合にどう対応するかをということをもう少し研究してもらって、ここも一つの他所と違う原因の一つになっているのではないかなということを思います。次の会で少しそういうことを勉強してもらえればと思います。

○部会長（齋藤成徳）　ありがとうございます。その他なにかご意見ございませんでしょうか。

○委員（武田恵子）　私は労働組合の代表で入っているのですが。さっきから申し上げているとおり学校現場に居りますので、６９ページのところの課題の（２）職業能力の④にインターンシップというのが出ているのですが、行政の皆さんはご存知だと思うのですが、せっかくだからちょっと宣伝させてもらいながら、協力もお願いして後継者育成に使っていただければなということを含めて、中学生、高校生を引き受けていただけないだろうかというお願いも含めてお話したいと思います。今、中学校では３日間だったと思いますが、どこかの職業体験をということでいろいろお願いしています。でも、中学校の担当の先生方の苦労は、どこにお願いすればよいか分からないということです。頼まれると中学生にやらせられることは何かということを考えた場合に、なかなか引き受けられないというところがあると思うのですが、是非、上手く使っていただいて、農業も漁業も林業も土木業も、できる事をさせてもらって、こういうのもいいのだなというふうにしてもらえると、少し地に足がついた仕事ができるのではないかと思います。先程富樫委員からカッコイイ仕事という話が出ましたが、実際子供達が知っている仕事というのは、そういう華やかなものしかないのです。ところが、現実は華やかなものでは食べていけなくて、地道に汗水流す仕事でなければやっていけないわけなのですが、そういうところが解からない、そういうことを教える期間も今まで無かったのではないかと思います。今年は３日ですが、来年になると５日になると頭を抱えていましたので、お願いしたいと思います。そういうところを使って、地域のこういう仕事があったのかということも、無いのだといわれると困るのですが、先生方の方にというか、学校に声をかけてもらった方がありがたいと思います。中学校では特に苦労しています。私たち小学校で、実はこの間、総合というのが新しく入ったものですから、酒田市の自慢探検に連れて行ったのですが。９か所にお願いして、企業とそれから施設と、申し訳ないのですがお願いしますということで、小学校３年生の子供を１０人くらいずつ分けて、私たちだけでは手が足りないので、保護者にもお願いしてついていってもらって、学習バスの浜風号を

使って行ったのです。そうしてみると、私たちがお願いするのも、まずは一つは安全なところ、それから、やっぱり酒田を誇れるものと考えました。学習バスなものですから、あまり遠くへ行くと、結局時間もかかるということで、なるべく旧市内の街中で収めようとした事例でもあるのですが、考えていく時に、結構郡部にもいい所があるのです。見せたい所、子供達に学ばせたい所があるのです。農村部の方の点在している所にも頑張っている企業もあって、そういう所も見せたいよね、これって全国に誇れるものを作っている所だよねというのがあるのですが、なかなか、先程池田委員さんもおっしゃっていましたけれども、酒田の人って、庄内の人って、宣伝下手です。簡単にいうと鶴岡から宣伝力では負けるし、そういうことで、もっともっと、まず地元にわかってもらって、地元の人が誇れて外へ宣伝できるようにしていくと良いのではないかと思いました。是非中学生を活用いただきたいというふうに思います。

○部会長（齋藤成徳）　ありがとうございました。その他、ご自由にどうぞ。

○委員（富樫秀克）　商工会長の立場でですけれども、６４ページの商業の振興の中の課題の（２）商工組織の連携です。八幡、松山、平田の商工会は、平成２０年の４月を目途に今合併で様々なことを進めております。その予定でおります。そういった中で、合併になったその先、ますます商工会議所の方との連携なり、必要な情報の共有といいますか、そういったものは大事になってくると私は考えております。当然、規模の大きさからいっても、会議所の方が大きいわけですし、様々な形で八幡、平田、松山商工会が合併になったその先の商工会に対する会議所の様々な配慮をお願いしたい。合併の委員長は八幡の齋藤会長ですけれども。

○委員（齋藤籐八）　確か、松山さんも平田さんも新しい会長になられたもんだから前の事はちょっと解からないと思います。いつか、確か２回くらい会議所さんと話して、まず仲良く並存していきましょうという話はしておりました。事業の内容としては、商工会議所は企業だとか、そういうものを一番重点的に考えているわけです。我々商工会は、個人を対象にしたことを重点的にやっているものだから、当然、指導の仕方とか事業の内容も違ってくるわけです。そういうことで、経済団体として目的は同じですけれども、性格的にはちょっと違うところがある。ということで、今松山さんが言ったように、会議所と商工会は並存して、連携を保ちながら当分はやっていくという方向には変わりないと思いますので、一つよろしくお願いしたいと思います。

○部会長（齋藤成徳）　商工会議所の会頭の立場でちょっと。実際は本当に、この地域を見た

場合には、商工会議所なり、商工会なり、当然持っていかなければなりませんし、また、そういう形をとろうとしているわけです。ただ、酒田商工会議所の場合をみておりますと、何というか遠慮している部分がありまして、私から見ると、もっと遠慮しないで突っ込めというふうな事を言っているのですが、非常に遠慮している面があるなというふうな感じがします。それは何だかというと、商工会議所というのは商工会議所で全国組織になっているわけです。それから商工会も全国組織なのです。上のほうに行くと商工会議所と商工会の生い立ちも組織も全部違うのです。職員も全部違う。こういうふうな中で、市が一緒になったから一緒になりましょうというふうなことであっても、商工会議所には商工会議所の職員が、商工会には商工会としての職員が居るものですから、そう簡単にはいかない。ただ、我々が見ていると、商工会議所っていうのは大きいものですから、ついその何ていうか、吸収合併するようなそういう対応だけは絶対にしては駄目だよと、いう事を私が言っているものですから、何かおっかなびっくりのようなかたちが多いということもあれなのですけれども。だけれども今度新しく会長が代わりましたので、また新しい分野でいろいろ企画を設けますので、そういうふうな面でも、ただ何もこう、あれしないでなしに、遠慮している面も多少ありますんで、そこもちょっと汲んでいただいて、どんどん、どんどん言ってもらえればありがたいと思います。商工会議所も今度専務が新しい専務に代わりましたので、商工会議所の中の組織も代わりました。そういうふうなことでお願いできればありがたいと思います。その他何かございませんか。

○委員（中瀬義秋）　先程の武田委員さんの話ですけども。実は５月の末頃だったと思いますが、市の教育委員会さんから商工会議所と各商工会に今の中学生の研修の問題で連絡がありまして、今年は酒田市内の四中と松山中で、５日間夏休み研修をやらせてほしいということでした。お願いはされたのですけども、何をさせればいのかということで、非常に難しいのです。何とか松山さんで受け入れる企業が出てきまして、何とか今年は消化できそうです。ただ、来年は全部の中学校です。それは実施しなさいと国の事業です。これは困ったというのが本音なのです。さっき言ったやつを、例えば土建業に連れて行って見せるのはいいですが、５日間も何を勉強させるかというのは非常に難しい問題だなということで、各企業さんで本当に悩んでいるのです。そういう現状で、ただ、今年試験的に全国で何箇所かやるわけです。その結果、来年はちょっと長ければ３日間になるというふうに、まだ流動的なようです。でも、何とか全中学校で実施しなさいという国の事業で、どうしてもしなければならないと言うのです。それを企業にお願いしたいということで来たものですから、何をさせるの

かということが一番頭の痛いところです。それが現状です。

○部会長（齋藤成徳）　ありがとうございます。その他何かございませんでしょうか。ないようでしたら、次回の会議に持っていくまとめだけをしておきたいなという感じがいたします。今日の皆さんのご意見を総合してみますと、やはり、現状はですね、もう少し景気を良くしてくれということに尽きると思います。ただその中で、私も常日頃一番言われて、気持ちの中にも思っているのは、先程武田さんがおっしゃるようにですね、若い人達が、あるいはUターンの人達が働く場所がないのではないのかというような、もっと、それを従事してくれるような何かないのかということが、大勢を占めているのではないかなあという感じがしてなりません。そういうふうな意味で、いろいろこの中には、工業だけじゃなしに観光もですね、いろいろな面で入ってくるわけです。私も観光なんてものはあまり前には関心が薄かったのですけれども、最近、観光というのは、大変な地域に対する活性化に大きな影響力を持っているのだなということをつくづく感じさせられました。もう今あそこの夢の具楽にしろ、海鮮市場にしろあれだけのお客さんです。結局は、酒田市の人口のプラスマイナスというふうなことには大きく影響しませんけれども、流動人口には大変なプラスなのです。お昼に自由に来ているという人達の人口、大変この人達の動きが酒田の活気を支えるという感じを否めないでもないかという感じがしてなりませんので、やっぱりこの人の賑わいというのは大事だなというのは痛切に感じとらせてもらっております。そういうふうな意味で私も、商工業、企業なものですから、ものづくりをやってきたものですから、おっしゃられるそういう労働問題、そして、やはり企業の誘致にしても、大企業ではなしに、いろいろな話が出るのは５人でも１０人でもいいよと、そういう企業でもいいよと、そういう５人ずつの企業が１０社来れば５０人になるじゃないかというふうな発想もやっていかなければならないなと思います。次回は、そういう一つの問題に絞るわけにもいかないでしょうが、そういう雇用の問題、労働の問題、福祉の問題、そういうものをできるだけ今日の意見を集約して、だんだん詰めていくような、その総花的な格好でなしに、詰めていくような形の部会にしていきたいと感じております。今いろんな面でご意見を頂戴しましたので、結びとしてそういう形に持っていっていいのかどうかということで皆さんからお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「はい」と発言する者あり〕

○部会長（齋藤成徳）　いいですか。はいわかりました。じゃあそういうような何も狭い範囲じゃなくても結構ですから、今よりさらに重点を絞って、次の会に持っていきたいというこ

とのご協力とご理解をお願いしまして、今日のこの部会はこれで終了させていただきます。
お忙しいところありがとうございました。

閉会　午後　３時００分